114
A 3928
2

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

壹 テーポル私案組日本人規則
貳 同私案組外國人規則
三 ブラントンの差出せる燈明臺法案用勘定出
四 慶應壹辰年分已正月迄入費調書

民部省

五

同新正年正月廿四日迄入費調書

六

同所二月分同所二月晦日迄入費調書

七

同所正七月中御入用金請拂調

八

同所正八月中出入用請拂調

九

同所正九月中出入用請拂調

十

同所正十月中出入用請拂調

十一

撰所雇工之三ヶ月雇入約定出

十二

撰所九月中人夫賃人夫出入用調

十三 燈明臺取建出張官員ヨリ出

十四 燈明臺取建ハ入用凡取調書

十五 佐多岬ヘ燈明臺取建ヲ島津ヨリ願書

十六 硫黄島ヘ燈明臺改造ヲ長崎府ヨリ達書

付下ノ関ヘ浮標ヲ取建ヲ利害ヲ中將ヨリ願書

十七 英國海軍士官ハルチム庭ヲ約定書

十八 横濱ヶ所燈明臺ヘ里數附

十九 泥波部燈臺ヘ鋼ヲ以ブラントンヘ立ル

廿

同所ニ付修復掛ヶ合ヲ以寺島陶兵衛ヲ一人
ヨブラントンヨリ借復書

廿一

燈明屋高成布告并熱火前云々ノ儀
省ヘ掛合

廿二

燈明屋并浮標所建ケ所同掛ヘ問合

廿三

燈明屋并浮標所建ケ所附ケ

廿四

長崎琉黄島ノ武ケ所上総富津ノ一ケ所
燈明屋新成ニ付布告ノ儀ノ儀省ヘ掛合

廿五

同新ニ付燈明掛ヶ届ノ

廿六

同所ニ付ノ儀省ヘ答書

テーホル艦乗組人員并給料附

日本政府ヨリ日本水夫ヲ雇入ル条

左之通規則相心得居ル事

一 水夫ハ其業ニ従事シ蒸気テーホル艦ニ

乗組期限ハ六ヶ月ニ定ル事怠惰放逸

之職ヲ尽サル事

一 雇中ハ必正直且従順ニ勤ムベキ事

一 身ヲ清潔ニ保チ治ニ当ル衣服ヲ着ル

ベキ事

一免許を受ずして暫時なりとも船を出さ
るものは二日分の宿料を支拂へし若
西洋四十八時を過る分帰船せざるものハ
是迄の宿料を支拂上なを上旅費を加ふ
可し

一食料を運ぶ時ハ宿料を支拂上四十八時分
船内に出るものと同罪とすべし

一食料は一人分日に米二ホント四分一并
業代として一ヶ月に金弐分ずつ出すべき事

一宿料は是迄徳と名前の傍に記
す通りなれハ不足の事

日本字ニテ名前	英字ニテ名前	年齢	何月何日雇入	何月何日生	何程	一ヶ月給料
						銘〻調印

出張大蔵省
神奈川民部省

貳

午六月フラントン氏外出人テーボル条組規則写さす

テーボル条組規則

第一歐羅巴人何人に限らずフラントン氏或は
同氏より委任あるの士官より免許を受ずして
テーボル艙へ一切条組取扱いをなす事

第二不ことを港に於て条組取扱時を失節
和人に条り信せさるる器械方より免許を出さず
一一器械方条組取扱ざる時は和人より

神奈川 民部省

出張 大藏

免許致シ候事

第三重役ニハ艦部長ハ職人世話方
細工方倹約調方炊所方水艦部長ニ
一日壱艦部長ニ付キ者乗組ニ日一日壱度
料金当リテ二ドルヨリ多ク無之事
食料ハ船中ニ於テ炊方ヲ定候ヲ以テ買ニ代
金ハ船ニ上陸ニ付キ支拂フ事
焼酎新艦部長ニ薬用ニ付一切無用ノ

出張大蔵

ラサルヲ
第四小筒ニ付一切荷物室中ニ持込ヲ
サル事
第五室中ニ燈火消夜ハ十字ヨリ消
ヘキ事
第六出帆刻限ヲ報知シタル時ハ出帆ヲ
限ニ乗船ヲヘシ乗遅レ時ハ己ヲ
ル事ヲ暁ニ出帆ヲ時ハ名ヲ夜ニ

神奈川民部省

第弐号へ之部

第七航海中各船長之面会申候面

若一船長之儀稲荷祈之屆之事を一

船長ハ出事一

出張大蔵省

テーホル船

佛噸数八百十五噸十一ト

長サ

七十三メートル半

水入深サ

四メートル

百分ノ三十四

軽リスル寸ハ

百分ノ十四

神奈川民部省

巾八メートル　百分ノ七十七

軽ノ木ハ寸ハ水入丈ケ　一丈二尺

惣目方　千二百五斤

出張大蔵

三

仮人ハ送ル為ニ横文字ニ

一三方帛　四月中旬着ニ分　英国ノ指示セ具

一生方帛　三ケ帛　四月五日ニ発送　七ケ帛　七ケ月ニ手始　ツルギサキ

一三美帛　七ケ月手始　一ケ月ニ終ル　三ケ帛　ミコモト

一五百帛　七ケ月ニ手始　ラーシマ

一八ケ帛　共ニ同所　イツミサキ

一弟ケ帛　六月中旬　一度ノ　イヲージマ

神奈川県　民部省

巾八メートル　百分ノ七十七

軽ル水ハ入丈ケ　一丈二尺

惣目方　千二百五帙

出張大蔵

三

此度ブラントン介ヲ以テ横文字ヲ

彼人ヲ送ル左ノ通リ

一　三方帙　四月中名着ニ付　英国ノ指示セ具

一　笠方帙　三人帙　四月ニ五郎分渡　七方帙ハ七ヶ月ニ手帽　ツルギサキ

一　三笠帙　七ヶ月ニ一ヶ月ニ　ミコモト

一　五百帙　七ヶ月ニ手帽　ラーシマ

一　八方帙　英国ノ図形　イツミサキ

一　弟方帙　六月中ニ一度ノ　イヲージマ

神奈川民部省

一二万布　七月二平均　燈屋新二渡

一二千布　[illegible]中ニ[illegible]ノ分　ミモノセキ及浮木

一壹万九千布　七月二平均　トーメウ丸

一壹万四千布　第四月所　燈屋[illegible]用
[illegible]料共

ノ板四千五百布

出張大藏

燈屋

三

[illegible]

[illegible]沖炮[illegible]ニ建築ニ燈屋
[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]國
[illegible]布[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]國より[illegible]布
[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]必ニ[illegible]ニ燈屋ニ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]布[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]者

廿壹

十務省

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外務省

燈明臺并浮標瀬之儀ハ一ツ此程迄ニ
決取設相成筈ニ付所附兼知ニ付及告
告布告ニ付入用ニ儀ハ一ツ出張ニ及
筈地名ハ追調至急届筈ニ付此段及
告掛合筈也

四月廿五日

民部省

在神奈川
知事殿

民部省

燈明臺并浮標等是迄ニ故設置候
ヶ所附取調可申上旨達之趣兼知
仕則左之通ニ産候

一 豆州神子元島　仮燈明臺
一 紀州樫ノ崎　燈明臺
一 同潮岬　同
一 薩州佐多岬　仮燈明
一 長州下ノ関　浮標弐ヶ所

大藏省

一 相州観音崎　御之所
一 房州野宮崎　同
但右両所ハ佛國人掛ニ而立ル
一 上総富津洲　浮標
一 武州本牧　御之所
一 同羽根田　浮標弐ヶ所
一 七湾硫黄島　仮御之所
一 横濱　浮標弐ヶ所

右横文ニ以追ヶ而國ヲ正布告ス而富貴ヲ
生産ス

右ハ
一 相州剱崎　正普請
一 紀州加ヶ島　同
一 摂海大坂
一 同兵庫
一 淡州江崎村　正普請

一 濃州廣瀬
一 伊豫今治
一 豊前井溝
一 長州海士連
一 筑後港 成雷備中 於所船

右當所之儀も成雷備中建て成横ぐ成長
此段は報中上被也

午四月廿七日 寺社奉行
於所奉掛

民部省

大藏省

長崎琉横島外諸所於ニ居住者布告
并上海横濱外諸所布告模文動相校
第壹号公使閣士ホルヨリ急ニ達
相成居ニ付及此段ニ掛合ニ
四月十二日

大蔵省

外務省

丙午

即ち別紙通り五月末ハ

民部省

航海者ニたゝる

一長崎琉横瀉　仮燈明

一紀州大嶋樫ノ崎　燈明

一同潮岬　仮燈明

一上総富津ノ洲　浮標　但大形ニ取直シ

一武州羽根田洲　浮標

右之通諸藩成規燈ホ為ニ一ヶ所ヲ

別紙ニ通及布告ヲ段各國公使ニ示ス

大藏省

五箱外務省ヨリ至急ニ達方ニ付
出張大蔵ヘ
出来省ヨリ通達四百部ヲ取ヲ
中之分原文五拾枚宛内四拾枚宛
訳書ヲ相添差上ル冒頭四百枚ヲ
尤伊藤公ヨリ御渡ヲ
横文ヲ通ヲ出来ル枚ヲ又同人ヲ
ニ然ル所ヲ一ヲ段至急ヲ
在神奈川

午四月十一日　燈明臺掛

民部省

出中

神奈川県　民部省

[illegible]

出張大藏省

[illegible]之覚

一 [illegible]山島 [illegible] 燈明
一 紀州大島樫ノ崎 燈明
一 同 潮岬 同
一 上総富津ノ洲 燈標 但大阪ニ在之
一 武州羽根田ノ洲 浮標

右之通御告文[illegible]相成[illegible]也

燈台エンジニール雇入約定書

覚

此度日本政府ニ於テ為エンジニール職之者の上等弐人雇入んとす尚之付則ケ條左ニ通

給料

上等 壱ヶ月分 洋銀四百五拾枚

下等 同 百五拾枚

但英国サウスヘムトン出帆之日ヨリ勘定すべし

支度之当金

神奈川 民部省

上等パウンドステルリング　弐百枚

下等同　壱百枚

船賃

上等ニ船賃ヲ人府パウンドステルリング百五拾

四枚半左上等ニエンジニル妻ヲ連テ弐人

分無ト雖

日本左海中ハ用向ニ而旅行ニ節ハ日本政府ヘ

船賃ヲ無ト雖

旅宿

上等ニエンジニル夫婦ニ而第一ノ居室四間

麻布四百貫他墓所小使部屋ニ而倚拠家

ヲ棟貸與ス

下等ニエンジニルヲ居室二百麻布弐間ヲ他

墓所小使部屋ニ而倚拠家一棟ニ而人旅宿

致ス

下等ヲ船ニ而上等ヲ居室ヲ夫上等ヲ

横須賀造船所ニ於テ日本政府ハ英国出帆ノ汽船
ヲ一節ニ付拾万弗ニ内態ヲ以テ
府ヘ通知ヲ以テ
第一五年未ノ内日本政府横須賀
順ヲ経テ英国ヘ拾万弗ノ代金ヲ日本政
府ヘ渡ひ申ス筈ニ付
或ハ蔵業不行届ニ付ハ順ヲ以テ

民部省金ハウドステルリンヲ五社教ヲ良ト答フベー

出張 大蔵省

明治二庚午年五月分 債合清算

經費及所用品ニ付書類

但所用品

金五拾六万五千用 我

不分明人ヲ殺フランドル引合ヲ以テ高ヲ復ス然ル仕

西国人為来迎航海ヲ以テ後列戦之間有ヲ

モ弊食料之儀ヲ為実施之間ニ付ヲ以テ後

ヲ以テ完世殺何

庚午五月

神奈川 民部省

神奈川県

民部省

出張 大蔵省

金ハウドステルリング五拾枚を渡て無之ベー

徳川兄弟ハ松平近江守家臣佐藤内蔵助
不参旨人ヲ以テ申聞フランシトンヲ引合ヒ上方ヨリ横浜ニ仕
候間人馬等迅速航海ヨリ後列藩ニ命シ有ヲ
モ兵糧食料之御手当ヲ為実施之間ニ付ヲ以墨氏後
ハ横浜世話役ニ付

庚午五月

今般御用九番組人員

多聞書

一 四拾五人　　軍役一筋士官
一 弐拾五人　　同　弐筋士官
一 三拾五人　　徴滅一筋士友
一 弐拾五人　　同　二筋士友
一 弐拾五人　　俗事　三人
一 拾五人　　内火小役　四人

神奈川　氏部省

一八文宛
一九文
一八文
一七文宛
一同
一五文宛
銭合三貫八百人
世話料 此合三百八拾六文
出張 大蔵省
外支出百拾弐人
船賃 壱人
大工 壱人
外支拾人
火焚 九人
茶番 六人
門番人お減ル事

一一昇壱度宛下俗事壱日宛壱人宛
宛食用お物ハ勝手
一合三拾七文弐分 一ヶ月 五分
一外支出百六合ニ茶代銭弐分五厘
俗ニ云右同断
一合壱拾弐文宛永百拾文 一ヶ月 三拾ヶ
ハ昇五石九斗四升 白米代 此壱五厘 八升弐合宛
神奈川 民部省

一 金四拾三両三分

世話料 四百七拾五文

四月

一 金五百三拾七両 永百六拾九文

出張 大蔵少 名川清 蔭代

洋人宗門中焼西丸一ヶ月西刀剣検

一 洋銀千五拾七弗

食料月〻不足弁五ヶ月
平均五ヶ月分

洋人法料

一 洋銀三百拾七弗 五拾三セント

内食料

一 洋銀千三百七拾四弗 五十三セント

内千四百八拾九両 永七拾匁 金ト 但三弗洋銀六拾五匁替

日本人法料

一 金百九拾五両

一 金千六百七拾九両 永七拾匁 金ト

神奈川 民部省

[illegible]

今手百四拾弐万永百三拾五文弐

右一ヶ月之處用也

[illegible]

午五月

午五月分 [illegible]九番迄十七度月分

一 合金百五拾万

内訳

金四拾五万 早板一号十番 宮城県 扇三

同二号十番 板垣務次郎

機械一号十番 宇野洋蔵

同二号十番 [illegible]本藤次

佐幸 田中兵三郎

神奈川 民部省

右之通

庚午

出張 大蔵省

午五月分 御門内外吏員官元禄月俸

一 合金弐百三拾三両

内訳

金拾両 吏員 政次郎

金拾両 吏員 豊次郎

金拾両 吏員 永次郎

金拾両 吏員 雷次郎

金八両 吏員 [illegible]

神奈川 民部省

出張 大蔵省

金拾五両　　綾治　三人

金八両　　大工　三人

金七両二　　分文　拾人

金七両二　　少焚　九人

金五両二　　羊番　五人

右之通相渡

庚午　五月

給門丸常治之之の食料

三年四月分後用書

一金百四拾七両弐分永弐百四拾文九下

内訳

金三拾七両弐分　　士族五人　食料

是ハ一日三人九合三ツ之後三年四月

金七拾五両永弐百四拾文九下　　変小役下番人　四人　料

内百五拾五石七斗六升　　但中扶持三五月八升弐分

神奈川　民部省

出張大藏省

是之一日より人員六人金百両

金四拾五

出張代賃四百目

是之一日より人員出張料五日分百両

右之勘弁

庚午五月

慶応二丙寅年　正月至六月

御用基御用之内書役

濱倉清

この度出張の儀、別紙の通り、陸其船毎之内年貢金一時繰替置其船同

様に可相達旨二千三千と云金数にて繰替引出候数

之金を掛り方に能く置仕拂可致拂残之金を

拂方に積立の儀也

陶器

神奈川県庁蔵書

是ニ一日ニ人員六人金ヲ渡ス

金四拾両

出張代賃四百目

是ニ一日ニ人ニ付出張代五匁ヲ渡ス

右之勘ヲ

庚午

五月

出張大蔵省

十三

繪図基佛ニ一ニ會計方ヲ中ニ之ヲ為ス者ニ付異意

陸基脈ニ之ヲ付年賃金ニ一陣繪暦置其紙同

方ニ丁お達ニ二千三千ト云金数ニ而繪暦引去彼数

之金ヲ掛ケ為ニ置佛可致佛料之金ヲ

掛ケ三井ニ預置ニ彼ニ

陶器ヲ

神奈川民部省

今般煙草の基業を高崎縣に移し之を
其地に諸場所煙草の基業開設出張致し居り其
何れも莫大の入用を御下渡の義有之候
重立場所を巡察趨幸之人々を為立分出張
致候方と申候
洪場所出張致し者日高崎等高崎并東京より五名
乃至高崎下之義高崎縣之掛合に准し別紙之通申
この段別に申候

神奈川 民部

出張大蔵省

出張大蔵省

但京都之儀者藩高取事者当月廿五日
京都ニ
場所差之而至様ニ洪水用心之為其土地ニ洪水
節人手薄有人共者之事欲知至度ニ付之節
為実合可出仕旨相心得之事ニ
右御用中ニ
己四月

諸ヶ所ニ出張之節日高取事者当月廿五日
月番 高取藩
六等官
隆盛基周及藩
己八
日高取事者
一 今度之儀ニ
見之一日今度武家宛京下ル長崎廣島出張之節
一日今度之儀ニ宛ル月 右振合ニ基き書
面之世ヶ京下ニ様ニ

神奈川県 民部省

月並 会之振舞

七月十日
於四臺間役
壹人
日高平内

一 会之為之
毛氏一日会之為之
浦出張之節一日会之為之
振舞之基き書面之通り後

月並
月 会計振舞
会振五月

八月廿日
於四臺間役並
月振
壹人
日高平内

一 会之
毛氏一日会之為計兼帰之節
一日会之兼下の仮属司出張之節
会計振舞之基き書面之通
り後

九月廿日
神奈川
氏部

出張 大藏省

月極 後入ノ作方

燈台基附属

出張 大藏省

一金弐分

日高屋市兵衛

昆布一日分弐分弐朱ト銭弐百文下ル浦同浦同浦

浦賀出張之節一日分弐分弐朱ト銭弐百文下ル

基ヨリ書面之通ニ付右之振合

右之地内出ル

七月

内入用見積之覚書

四月中

一洋銀三万弗

代金弐万六千五百英国分相場之通ニ付割賃

但洋銀之儀ハ月賦五拾四日之見積不足之

金弁方ヲ以ト申ス

燈台基之儀ハ代銀庶ニ但幕之次掛所ハ

居ル事

但ハ文英国分落札之ヨリ中ニ右之文

分之通ニ付

神奈川 氏部

出張大藏省

摂務下ヶ札

器械之義ハ和蘭より七ヶ年之間御建器械ニ有之候趣

フランドンヤ立替旧幕之節拂渡ニ相成申候其後

相成分四ヶ年之間燈臺之器械料ニ無之候

一洋銀三千弗

此金弐千六百両

是ハ相州剱崎燈明臺當四月築建相成候ニ付

右御渡可申

下ヶ札

會計度ヶ官合下ヶ札

剱崎燈明臺築立之儀ニ付入用何々之入用料ニ候哉

元仕様ヶ書相添差出候事

摂務下ヶ札

三千弗之義ハ兼而フランドンヤ立替出候入用帳ニ内訳有之

弐万七百七拾弗之内器械之代引之元積ニ有之弗ニ候

フランドンヤ立出右場所之儀ハ四月下旬相納之趣ニ有之

弗之元積一之元積ニ而三千弗御渡候積ニ有之残七千弗

神奈川縣

民部省

下ヶ札

出張 大藏省

七月、平均月二度之積百之ロ

一洋銀壹万四千七百七拾弗余

計金壹万弐千八百五拾余

是迄決ケ所一ヶ月一開平均フランドン中立ル

會計局官員下ル

諸ケ所一ヶ月平均フランドン中立之額六月中開始ル

ヲ出ル十月迄之月ニ付料凡積之額大陶瓦ガヤ造ル

物ヲ焼ク凡一部ヲ分兼ル得ル之院麻ヲ

紀ケ

弗ヒ迄ル弘ニ長ク為ニ法ケ書ヲ為ル積ル書ヲ出

ル紙幣ハ次ノ事

推移下ケ札

兼ネフランドンヲ出ル四万開帳法ケ出ニ付器械之代

ハ際ル四月分之諸物ハ一開弗四万雇フランドン其ノ分之

者給料弗其ノ出ヲ一月壹万五千弗紙幣ノ為

院ニ分殷ノ庭四万弗ハ本ル四万義ハ五万ハ一株帝壹万五

弗フランドン其ノ給料五千四百弗一年ヲ為ニ用ニ之ロ

神奈川県立図書館

一金五千五百

是ハ同郡隣郡ニ相当ル者ヲ法律ニ準拠シ相応ノ後ニ

會計局ヲ経テ接収下ケ礼

右ハ追追之ヲ取調ヒ隣郡之ヲ相

早速ニ取調ヒ其隣ト協和法律ヲ書籍ニ照

合之改革

接収下ケ礼

帝都之勢ヲ熟考急度右金二千五百五拾之義

出張 大蔵省

礼ケ下

礼ケ下

礼ケ下

後ノ一変ハ是法律書之義ヲ行ヒ変急之改革ハ

其隣ト比較合ヲ当手帝ニ

合金四万六千四百五拾余

内

金三万五拾余

三月分

金三万六千四百五拾余

是ハ内訳収納金之内ヲ落ス者

閏五月中

一洋銀四千弗

計金三千四百六拾六拾余

是ハ長崎并下之諸一ヲ御ヲ

神奈川県民部

社寺

民部

會計局ヶ所合ト七九

出張 大藏省

其筋之吳藏ヲ為替ヲ以テ送致ス可キ筋ヲ御尋之儀何所ニ御座

横浜ト七九

兼而フランシスコヤ其筋ヨリ吳藏ヲ英國ヘ注文ヤ金盃ヲ横浜ヤ出張ヲ命ジ有之候ヲ以テ吳藏之代表際出ヲ之筋ヲ兼帰朝ヲ為ス可キ旨ヲ以テ出張ヲ命ジ

文ニ手紙ヲ認メ置ク為ニ為替ヲ以テ送致ス可キ旨ヲ以テ

之儀フランシスコヤ立ル事

神奈川 民部 出張 大藏省

今度陸軍基爲製造所庭入之英吉利（本ノ字）フランドン
氏リンライス氏ト帝国海軍横須賀造船所長
内務建之場所ニ付本月中旬ニ彼多岬ニ到
着ス於今月着船之上其所役人ニ出張申
引合方之義ニ付松ノ内ニ出張為公用
兼而御達ノ事

鳴津少将

神奈川民部省

五月

出張 大蔵省

行政官

長崎府

今度鎔鑄場建築ニ付テハ雇ヒ教師英人フランドレ其府硫黄鉱ヨリ鎔鑄場ニ及送之為ニ当月下旬横浜出帆新造之鎔鑄場ハ未タ日不能ト雖モ送不於鑄造之義ハ立之迄ニ元ヲ先ツ為ニ府着ハ之ヲ職工名ヲ号ハ為ニ文ニ之ハ此の年一ノ世ニ中至ノ事

五月

行政官

兵刑事務ハ本省

神奈川民部省

今度御開墾建築所ニ於テ英人フランシス
当月下旬下ノ羅ニ於テ誠ニ深標ニ為海ニ落ツ
同所役人ハ領主ニ対シ之標ニ引揚検査ハ節領主ハ
標ヲ深ク海中ニ落ツ其ニ下羅洗浮ノ属ヲ
為ス為ニ有形之ヲ見ル又世ヲ知ル此ノ翌年世限ル
之為兼ネ右年ハ来年

三月

出張大蔵少
行政官

英国軍艦マニラミ士及チャールス
ハルヲムヲ日本政府ト之約定書

一チャールスハルヲム英国海軍ヨリ艦ヲ以テ日本
政府ハ付ル事世書ヲ以テ約ス其約言左之如
第一右人之役目ハ徳川氏ヲ以テ為ル
ヲ元ハ器械方之指図ニ随ヒ又役目ニ係ラザル事
ハ何ニモ為サル
第二和之条件ハ五ヶ年之事年限満テ去隣ヲ其

神奈川民部省

年限之一ヶ年前ニ帳面を以テ出願ス又政府
ニテ同様年限満ちて帳面を与フル時ニ一ヶ年前其
由を同人に為知置つ
第三 右チヤールスバルチム勇拙方ふ法或後月ニ死
意せざる様之時ニ政府より其筋へ届ケて直ニ
之を廃棄す
第四 若人ニ後月を英国ニ於テ死亡と同様
之事ニ付ては方法を要届合を出す迄
出張 大蔵省

第五 訴訟料を一ヶ月前ニ届ケ月ニ併ひ渡す事
ニ付ては政府より出さる事
千八百六十九年 アーンヘルリーフランドレ
第五月十日 チヤールスバルチム

神奈川民部省

横濱ヶ浜ヨリ鹿島根迄海岸

陸路凡之法

薩摩ヶ浦ヨリ岬

四百二十里

紀州長浜ヶ

三百五十里

長州下ノ關ヶ

二百七十里

紀州大浦ヶ

百二十里

豆州稲子ヶ浦ヶ

五十里

房州鹿浦ヶ

五十里

神奈川県立図書館

相模観音峠ヶ崎　十里

右之里数ニ付旅費ニ手当ニ開ニ付伺

三十二月

内閣書記官

伺之書ニ付土板

濱屋清

貴命ニ随ひ西海西波戸場ニ至之日本政府不
属の汎波藏藏並ニ陸奥都不藏藏の決部を要し
玉造の法ニ倣製造いたし候ものとおもへとも其力を
大約十六馬力其藏藏の種類を低減し不属ニ藏
藏元の裝置とするときは凡十八尺乃至二十尺の
多底より毎時大約百四十噸の砂礫或ハ土沼を掘
上ニの上低右を陸ニ揚ハ土砂を移ス入費の事ニ

是ヲ二ノ年度ニ於テ右蔵械全成ノ原ヲ洋銀六万弗
乃至八万弗ノ価ヲ以テ有ヲ而ルトキハ大坂ヲ運
搬シ其地法紙幣ノ如クニノ中ニ於テ一ノ形造ヲ成ス事ハ
亦多時ヲ要シ中間愛知ヲ其地形実験ヲ立ルカラ
ヲ以テ歳行ノ時日ヲ要シ試験ヲ定メカタキニハ実ニ
右蔵械ヲ改作スルトキハ不ル貴貨ニ有ヲ以テ
適宜ノ装置ヲ設シ最緊ヲ為ス所ニシテ
高作蔵械ノ潜部錯乱シ指ス所ヲ俯察

スルヲ不容易ノ事ニ於テ中右蔵械中ノ要ノ部
若干ヲ良久シク水中ニ沈没シ腐蝕ノ為ニ甚シク
鉄銹ヲ生シ其度ヲ遮ル為ニ其使用ニ堪ヘサルヲ
使用ニ堪ヘサルヲ清掃セシメ頗ル須臾ノ間
ニ於テハ且又右蔵械ノ潜部ニ残其ノ腐ニ成ル
繪図面モ無ク為ニ洋和ヲ雑ヘ速ニ右蔵械装
置ヲ入費ノ如ク仕ヘ出ス成ル事細ヲ筆ニ計難
殺ノ大概洋銀五千弗乃至八千弗ニ為シ

可申推考候

右裝置方之儀毎ニ熟思候ヘハ文明化ニ必要ニ
洪其を小拙ハ且化工ニ巧なる或歐羅巴の減減方か
令ハてなきハもつ方亦廉價ニて且ハ完全の
良仕法ニ可なるを勿論推著共同人の監督ニて決ス
指図ハ日本政府之者か無之化学か深く着意
注目の儀ハ他名入用高も未定ニ後日同人か出高
の見込なを出ハ兼ての伝ニ日工ニ日ハ傭使の人

出張大蔵省

員系課之ハ併原号始終着手の原載判ハ一士者と
右代場ニ改ハ　お加方の廻お考ハ
減減減之の分を其定量目を新ハ別代中之の科を
以て新製為候ニ付ハ其ハ後責を為ニ出ハ
右ニ日推著原迄常お徳ハ支即ハ一ハ氏社中右見
込之價ニて事業ニ別氏ニ西同社中ニ事代ニ
ハ右原迄ハ西実ニて御ハ御の屋敷之為迄ニ採
用之後日本政府ニ推著ハ原許ニ之上ハ右代工

神奈川民部省

相模中ノ沿海ハ先最初ノ藏械ヲ玉薬ヲ裝置シ一
仮宜ノ地位ニ於テ一日試發ヲ為シ以テ他ノ良否ヲ
試ミ之ヲ他ノ場所ニ移シ新ノ入用ニ用ヒテ時ニ怪
沒所ニ於テ出所ノ出張ノ方番ヲ以テ試發ノ後
儀械ノ内解放シ以テ之ヲ決部ニ送ル而
他ノ部中ノ藏械而シテ其藏械ノ全体ハ海ニ流ル
ノ義出手案ニ為ス長キ意氣ニ於テ深ク大坂表ニ於テ
二年ヲ空

出張大藏省

横濱

天保六年十月初一日　アルヘコリ　ブロントル

神奈川

米幸元

神奈川　民部省

泥浚渫械裝置方案

右今西海戸場小森の日本政府附属泥浚械裝置の案左之條下に列す

第一條

渚設の化工を械械方或は其事務を監督し但

併買の工事一其課工を交換し或は之を止停の

指令を右械械方系取役常小之を自保すべきの

第二條

機械の製造を仕業果たす約の日より三月を経て全然し而して其の成強をなすも若し期を過さず延期中拒者なる毎日洋銀弐拾弗を日本政府に収むべし

第三條

機械取扱に於て其機械の洗部を清掃して各々其不伝の固有なる他真他機械方より不令の潜工を左の工科を供して見とるべし

一日洋銀弗　他蔵機方以下督工蔵機方号

一日洋銀二弗弐拾五セント　熟練の工夫并支那人号

一日洋銀四十セント　小頭并傭夫号

但決人と雇傭を為す者は機械方々之を除く

右傭工の賃銀は日中十五時より常者し他工中常小甚小

但し

第四條

左の工科を供して機械中欠乏の洗部を形製し

出張 大蔵省

上蔵蔵方ヨリ不令の其他の代立をもとめ

一 鍛鉄二科　一舟及ヒ　十八セント

一 鑄鉄二科　同所　十セント

一 黄銅二科　同所　四十五セント

一 轆轤二科　毎日　十五弗　添科

一 螺旋鉄所器二科　一舟及ヒ　四十セント

一 木二科　一アート三方ヒ　代なし

一 塗抹料　一アート平法ヒ　四セント

六

第五條

滑車喞筒其他船ニ代立ル必要の決算費のため

洋銀弐百五拾弗銀貨ヲ但蔵蔵方の証書を以て月ニ

ハ月を落ス筈

横浜　十六年六月十日　ルーシー　仕中手代

アルヘンリブロントン　来

神奈川　民部省

四市民社倉米ハ総テ焼防基撤減方取計業務
不基分建造ヲプリシンプル法負の二万五千百五拾弗
ニ而出来ル者約定仕樣書添申渡事ニ付右
建造約定書ニ
一 約定書ニ取定めこと金壱万弗之日より
四ヶ月ヽヽヽ 右約定日限後ヲ
ヒラハ約定用ヲ落成ニ至迄一日毎ニ弗ヽ約定人
ヲ拂ハ仕事

一 二拾歳より一ヶ年之内を物足人に而相撰ひを
修理致し申事
一 拂方之儀を月割にして大蔵様より渡書を右出
さる毎月朔日に拂山屋一毎月三割宛を決し
今歳と係渡として渡り置屋一又物足面股拂方
て割を引き大蔵の降り一ヶ年之内渡り金元
修復を加ふ傷し際に修ふ傷し事
右物足書中之通り建造に掛り成の程

いづれ方に出張之儀に付願書の写
拾八月 日 井関斎
寺島陶蔵
横浜港基蔵横方
ビヘリ・ブロントン 殿

出張所
大藏省